

博物館物語 —その1— 胎動

- 昭和6年 (1931) 鳳来寺山が国の名勝及天然記念物に指定 (7月31日)、翌年、田口鉄道全線開通
- 昭和10年 (1935) 鳳来寺山でNHKによる仏法僧の鳴き声実況放送成功 (6月7日・8日)、仏法僧の正体が「コハズ」だと判明
- 昭和24年 (1949) 鳳来寺高校で「東三河の地質と鉱物の会」が発足 (9月23日) 田口鉄道鳳来寺駅構内に「田口鉄道自然科学博物館」開館 (11月)
- 昭和28年 (1953) 新博物館計画発起人会 (6月3日)



鳳来寺山

「最高峯ヲ瑠璃山ト称シ……松脂岩トナリ真珠石構造ノ
発達セルモノアルハ他ニ多ク其ノ類例ヲ見ザル所ナリ……
…佛法僧殊ニ名高シ」



石川成章



梅村基太郎



柿原明十

鳳来寺山を中心とする東三河の地質学的研究は、明治、大正、昭和初期にかけて、岡崎市出身の石川成章博士や地元の柿原明十先生が調査研究を重ねていました。

植物や仏法僧については梅村基太郎氏が調査され、昭和6年には鳳来寺山が国の名勝天然記念物となりました。

昭和9年には「乳岩及乳岩峽」「阿寺ノ七瀧」「馬背岩」が名勝及び天然記念物にありついで指定されました。

昭和10年になると鳳来寺山の仏法僧の鳴き声実況放送が大成功し、全国にその名が知れわたることになりました。

そのような中、当時の鳳来寺村で、鳳来寺山麓に博物館を望む声がいりいろな方面からわきあがってきました。しかし、戦争が始まり苦しい時代となり終戦をむかえました。

戦後間もなく、再び鳳来寺山麓に自然科学博物館建設の気運が高まります。そして昭和24年に「東三河の地質と鉱物の会」が結成されました。大学の研究者や田口鉄道の職員、地元の研究者らがメンバーでした。

同時に田口鉄道の鳳来寺駅構内に建つ公舎を改造して田口鉄道自然科学博物館を開館させました。陳列室2室、休憩室1室 (23坪) の小さな博物館でした。

活動組織と拠点ができただけにより活動も活発になりました。



高木典雄



柿原喜多朗

- 昭和31年 (1956) 鳳来町誕生 (4月1日) 博物館を新町のシンボルに 初代町長 加藤 淳 調査研究の場とする 教育の振興を図る

- 昭和34年 (1959) 博物館構想発表 (3月) 議会の反対 (建設資金、採算性)

- 昭和36年 (1961) 鳳来町議会 博物館建設計画の議決 (10月13日) 総工費3,100万円、地元寄付1,300万円

- 昭和37年 (1962) 博物館建設起工式 (2月27日) 完工 (11月15日)

敷地面積 2,926 m²
鉄筋コンクリート3階建 延床面積 1,107 m²
(本館 542 m²、展示館 456 m²)



加藤 淳

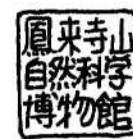


丸山喜兵衛

昭和の町村合併で鳳来町が誕生すると、加藤淳町長は元鳳来寺村村長であった林業家の丸山喜兵衛氏と共にあためていた博物館構想を新町建設計画に盛り込みました。

建設資金や設置後の採算性の問題などから議会で反対がでる中、丸山喜兵衛氏から山林1.2haの寄付と、県の補助金を獲得し、博物館建設の議決にこぎつきました。

丸山氏からの寄付は1,200万円にものぼり、当時としては空前の大文化事業が動きだしました。



のり

